

京都新聞電子版 2004 年 10 月 11 日付け記事から

<http://www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2004101100002&genre=E1&area=Z10>

(現在はデータが削除されアクセス不可)

遣唐留学生の墓誌発見 中国・西安 「日本」表記 最古の史料

【西安（中国陝西省）10日共同】唐（618 - 907年）の都、長安があった中国西安市で、奈良時代の717年に阿倍仲麻呂らとともに遣唐使の一員として唐へ渡り、勉学途中で客死した留学生の生前の功績を記した墓誌が見つかった。同市の西北大学が10日発表した。中国で古代日本人の墓誌が見つかったのは初めて。

遣唐留学生の日常活動はほとんど分かっていないが、墓誌には猛勉強ぶりや玄宗皇帝が死を惜しんで官位を贈ったことなどが記されており、古代の日中交流史を解明する一級史料となる。

東野治之奈良大教授（古代史）は「中国で遣唐留学生が大事にされたことを示す素晴らしい発見」と話している。また「国は日本」とあり、日本が大宝律令（701年）で定めた国名を中国側も認めていたことを示す最古の実物史料となる。

発表によると、墓誌は一辺39センチの正方形の石で、表面に171字が刻まれていた。西安市内の工事現場で見つかり個人が収蔵していたものを西北大の博物館員が収集した。

墓誌は「姓は井、名は真成、国は日本。生来の才能があり、礼儀の正しさは比類なく、勉学に努めた。開元22年（734年）に36歳で死去。皇帝が悼み『尚衣奉御』を贈り、水のほとりで葬った」などとし「異国に埋葬するが、魂は故郷に帰ることを願う」と結んでいた。

井は、中国風に姓を1字に変えたもので、真成は本名とみられる。日本や中国の文献には相当する名前はなく、全く無名の人物。東野教授は渡来系の葛井（ふじい）氏の一族と推定している。尚衣奉御は皇帝に衣服をささげる職場の長で皇帝と親しい人物が就いた役職。日本では下位の貴族に相当する。

墓誌は唐へ渡った年は記していないが、西北大は死亡時の年齢などから717年と推定。次の遣唐使船は死亡前年の733年に到着し、翌年帰国の途に就いた。井はこの便で帰る予定だった可能性が高いという。

遣唐使は唐の法制や文化を摂取する目的で630年から838年まで派遣が続き、留学生はその一員だった。

遣唐留学生の墓誌の要旨

一、姓は井、字（あざな）は真成。国は日本。生来の才能があり、よって命により、遠い国から唐に派遣された。

一、礼儀正しさは比類なく、勉学に努めて飽きなかったが、突然の出来事により、開元22年正月に36歳で、国の宿舍で亡くなった。

一、皇帝は（死を）悼み「尚衣奉御」を贈り、2月4日に万年県の水（現在の河）のほとりで国費により葬った。

一、白い馬車と旗をあげた葬列により盛大な葬儀が行われた。参列者は遠くに落ちる夕日を見て、ため息をつき、墓場を指さして悲しんだ。

一、（死は）自然の理だが、日本人々も悲しんでいるだろう。遺骨は異国に埋葬するが、魂は故郷に帰ることを願う。

注： は「さんずい」の右に「産」（共同通信）

【参考】『広辞苑』第5版「玄宗」の項目 (p.863) から

唐の第六代の皇帝。睿宗（えいそう）の第三子。諱は隆基。初めは開元の治と呼ばれたが、晩年楊貴妃を寵愛するに及び、安史の乱が起り、蜀に逃れた。乱後、長安に帰って没。明皇帝と諡（おくりな）。明皇。（在位七一二～七五六）（六八五～七六二）

【参考】「西暦734年」に「36歳」とすると、留学したと推定される「717年」には「19歳前後」